



学習者の発達の一例



言語習得には学習者の遭遇した言語の頻度情報など、統計的な情報が関わっていると唱える用法基盤モデルと呼ばれる説は、近年の自然言語処理技術やテキストマイニング技術の発達により様々な面からの検証が可能になり、勢いを増している。

当研究室では学習者コーパスを対象に構文解析などの自然言語処理技術を用い、異なるレベルの学習者のライティングの特徴の比較研究を行うことで言語学習の発達過程を調査している。特に、複数の単語からなる表現や統語構造に焦点を当てている。

【研究テーマ】

- 日本人英語学習者の作文における統語構造の発達の研究
- 学習者や母語話者に特徴的な統語構造の研究

キーワード

コーパス、第二言語習得、コロケーション、
連語表現、コンストラクション

相談に応じられる内容

量的言語分析、第二言語習得、テキストマイニング